

南アフリカ 西ケープ州の洪水被害の全容は未だ不明

EUROFRUIT 2023年7月19日

南アフリカの柑橘類生産者協会(CGA)は、洪水被害に遭った西ケープ州の柑橘類生産者を支援するための迅速な災害宣言を求めている

CGAは、国の災害管理センターに対し、迅速に行動し、西ケープ州での最近の洪水を州レベルの災害であると宣言するよう要請した。CGAのジャスティン・チャドウィックCEOは、「この地域の損失が10億ランド以上であるという査定は、『控えめではあるが、信頼できるものだ』と言う点で西ケープ州農業局に同意する」と述べた。(以下「」は同CEO氏の発言。1ランド=約7.8円)

「もちろん、損失の全容はまだわかっていない。川の土手、灌漑設備、私道、ブドウ園及び果樹園の被害は広範に及んだ。3つの自治区の柑橘類生産者が、激しい降雨の影響を受けた。」

「特に大きな打撃を受けたのは、多数の柑橘類生産者の本拠地であるセダーバーグ地域自治区であった。CGAは、シトラスダルの谷筋の地域だけで被害額は柑橘類1ヘクタール当たり5万5千ランドと計算している。したがって、洪水は、この特定の地域の生産者に5億ランド近いと推定される被害をもたらしたことになる。幸いなことに、最悪の雨が降った時点で、早生の栽培品種の60%近くがすでに収穫されていた。

当初、洪水によりこの地域からの柑橘類の収穫と出荷が2週間遅れた。農場主と農場労働者のたゆまぬ努力により、彼らは今、輸出シーズンのスケジュールに追いついている。ただし、シトラスダル地域では、早生品種が20%近く減少すると推定されている。

CGAは、柑橘類産業が西ケープ州の重要な経済的貢献者であるとしている。「同州は毎シーズン2千万箱以上の柑橘類を輸出している。」CGAは、洪水ができるだけ早く州の災害であると宣言され、影響を受けたインフラの修理や交換に迅速に資金が振り向けられることを望むとしている。

「柑橘類が南アフリカ経済にもたらす貢献が、何の支障もなく継続することが重要である。」

執筆者: フレッド・マインチェス

インドネシア 日本等のパイナップルとバナナの輸入関税撤廃を目指す

ANTARA 2023年7月19日

ズルキフリ・ハサン貿易相は水曜日(2023年7月19日)、南ランブン県のシゲル市場を視察した

ランブン州南ランブン県(ANTARA)-ズルキフリ・ハサン貿易相は、インドネシアから他の国へのパイナップルとバナナの輸出に対して輸入関税の0%化を目標としている。同大臣は水曜日に当地で、「ランブン州のパイナップルとバナナは、世界の貿易市場を席卷している」としつつ、しかし、さまざまな国との商品貿易には多くの障害があり、その1つは各国で異なる輸入関税率であると述べた。

同大臣は「たとえば、ヨーロッパ、日本、韓国に輸出したい場合、通常、それぞれの輸入関税がある。我々はパイナップルとバナナに0%の輸入関税を適用するよう取り組んでおり、貿易省は一部の国との協力を進めている。その1つが、ランブン州産のパイナップルとバナナである」と述べた。同大臣は、輸入関税の0%化は、地域の商品市場の拡大を助ける可能性があるとしている。

輸入関税の0%化を進めるために、インドネシア政府は欧州連合との包括的パートナーシップ協定(IEU CEPA)の交渉を加速している。

インドネシア統計局によると、2022年のパイナップル出荷量は86万1,700トン(主産地の中央ランブン県は85万9,700トン、前年は全国で70万5,900トン)であり、バナナは120万トン(前年は110万トン)であった。

報告者: ルース・イアンタン S K、レジンタ S